

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Tomo de coco Frère 保育所等訪問支援		
○保護者評価実施期間	2025/12/01	～	2025/12/13
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	2025/12/01	～	2025/12/13
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	2025/12/01	～	2025/12/13
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026/02/21		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	具体的で実践につながる専門的助言を行っていること。	訪問時には対象児童だけでなく、学級全体の環境や流れ、人間関係等も含めて状況を把握し、現場で取り入れやすい具体的な言葉かけや対応方法を提案することを意識している。 支援前後の打ち合わせや記録の共有、事例検討を通して、助言内容が継続的な実践につながるよう努めている。 また、外部研修や学習機会を確保し、専門性の維持・向上を図っている。	今後も児童福祉法および保育所等訪問支援ガイドラインに基づき、事例検討の充実や研修機会の確保を通して、より専門性の高い助言が行える体制を強化していく。
2	訪問先施設および保護者との丁寧な連携体制を築いていること。	訪問後のカンファレンスや情報共有を通じて、訪問先施設と支援方針の確認を行っている。 また、保護者との面談を通じて、安心して相談できる機会を設け、支援計画作成時には意向確認を行い、関係機関との連携を意識した支援を行っている。	情報共有の方法を整理し、支援内容や意向反映がより分かりやすく伝わるよう工夫を重ねる。 関係機関との連携の質を高め、継続的かつ安定した支援体制の充実を図る。
3	組織として支援の質向上に取り組む体制が整っていること。	ミーティングでの情報共有、ケース会議の実施、ヒヤリハットの共有、安全計画の策定・見直し等を行い、組織的な振り返りと安全管理に努めている。 自己評価や外部評価の結果を職員間で共有し、業務改善につなげる体制を整えている。	PDCAサイクルをより明確にし、評価結果を具体的な改善策へと反映させる仕組みを強化する。 記録や事例の分析を通じて、支援の質の向上を継続していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援計画への意向反映が十分見えにくい場合があること。	支援計画作成時に意向確認は行っているものの、その反映内容が書面上で十分に明示されていない場合があり、訪問先施設や保護者に伝わりにくい可能性がある。	支援計画への意向反映をより明確に記載するとともに、説明時に共有内容を確認する機会を確保し、理解の共有を図る。
2	家族支援の体制化において、さらなる整理が必要であること。	保護者会や日常的な相談支援は実施しているが、ペアレント・トレーニング等の体系的な家族支援プログラムとしては十分に整理されていない。	児童福祉法および運営基準に基づく家族支援の充実を踏まえ、既存の取組を整理し、より体系的な家族支援体制の構築を検討する。
3	支援効果の振り返りや成果の共有を、より明確に示す工夫の余地があること。	日々の支援や助言は実践につながっているものの、その効果や変化の過程を体系的に整理し、分かりやすく共有する仕組みについては、さらに工夫の余地があると考えられる。	モニタリングや記録の整理方法を見直し、支援前後の変化や取組内容がより明確に伝わるよう工夫する。 保育所等訪問支援ガイドラインに基づき、支援の評価・振り返りを継続的に行い、質の向上につなげていく。